

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
教育方法論/特別活動の研究 Educational Methods, Extra-curricular Activities		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(教職課程必修(中学校教諭二種(外国語)))	英語フィールドのみ受講可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
教職関連科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教職関連科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
松崎勇人	本館2階	月曜の3から4時限、 火曜の3から5時限		授業中に指示します
授業の概要				
多様な教育課程や教育方法の基本を理解する。教育の内容と方法の連関を理解する。特別活動の基本的事項について理解する。学習指導要領に定められている特別活動の目標、内容、方法を理解する。これらの知識を指導案作成に役立てる。				
授業の目標				
①様々な教育の方法及び技術(情報機器および教材の活用)について区別させる。 ②教育課程の意味と教育課程編成の方法の違いを区別させる。 ③特別活動の指導法を認識させる。 ④これらの方法を実際に目的に合わせて活用しようとする態度を育成する。				
授業の方法				
教育方法と教育課程については、自作のプリントを用いて説明と問題演習を行う。特別活動については教科書を使い説明する。基本的テーマについて、学生が考えることを尊重して、それを補足し深めるように講義を展開する。				
学習の成果(学習成果)				
①様々な教育の方法及び技術(情報機器および教材の活用)を目的に応じて使い分けることができる。 ②教育課程の意味を理解し教育計画を立てることができる。 ③特別活動の指導法を目的に応じて工夫することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス			
第2回目	教育の目的と内容			
第3回目	教育課程の類型(教科中心カリキュラム)			
第4回目	教育課程の類型(経験中心カリキュラム)			
第5回目	教育方法の類型(学問の体系性を重視する立場)			
第6回目	教育方法の類型(生活重視の立場や全人的陶冶の立場)			

第7回目	教育評価の基本	
第8回目	授業を構成する要素	
第9回目	情報機器とそれにふさわしい教材の活用	
第10回目	特別活動の基本的考え方	
第11回目	特別活動の目標	
第12回目	特別活動の内容	
第13回目	特別活動の指導方法	
第14回目	特別活動の評価	
第15回目	特別活動の指導案の講評	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	評価の基準
授業参加態度	割合 30%	最高水準としては、講義者の話を集中して聞き、質問に的確に答えられること、与えられたテーマについて仲間の意見を聞き、自分の考えを述べられるなどである。
レポート	70%	学級活動の指導案を作って提出する。最高水準としては、選択したテーマについて多面的に分析した上で、評価方法を含む指導計画を綿密に立てていること、オリジナルな発想があること等を評価基準とする。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容(態度含む)		
その他		
教科書と参考図書		
教科書：『中学校学習指導要領 解説－特別活動編－』文部科学省。自作プリントを用いる。		
履修上の留意点・ルール		
休まないこと。真剣な態度で講義に臨むこと。積極的に質問することを望む。レポートの提出締切は講義中に伝える。		